

4U

CULTURAL CITIES

Creativity and Social Inclusion in Osaka and Copenhagen

+2U +3U

2010年2月9日(火)～11日(木)、寒波で冷え込むコペンハーゲンで国際セミナーCultural Cities: Creativity and Social Inclusion in Osaka and Copenhagenが、国際交流基金の助成をうけて開催され、都市研究プラザから中川真(兼任研究員/文学研究科教授)、水内俊雄(都市研究プラザ教授)、櫻田和也(都市研究プラザ特任講師)の3名が参加した。

コペンハーゲン大学芸術文化研究科では、Marianne Ping Huan氏(学科長・教授)をはじめ、企画者のGunhild Borggreen氏(准教授)、Jacob Kreutzfeldt(都市研究プラザ特別研究員)は力のこもったプログラムを用意された。

「創造性と社会包摂」をテーマとした本セミナーは、初日、エクスカーションから始まり、Carlsberg財団のアカデミー、労働者階級の居住地域から中央駅裏手へと至る街路の中央緑地帯を再生した事例、薬物依存やホームレス支援にアーティストが入り、コミュニケーションの改善をもたらした事例などを歩き、体感した。



中央駅裏のホームレスドロップインセンター

続く両日は大学に会場を移し、口頭発表とディスカッションを行った。都市研究プラザからは、水内が西成区における社会的起業の事例、櫻田がホームレス問題に取り組むメディア実践例、中川が障害者とのガムランの事例について都市研究プラザの協働を紹介し、コペンハーゲン大学からは都市のプランニング、青空市場・歴史的広場の再生、都市の光や音の景観などについて報告があった。最後にBorggreen氏から「都市研究の方法論としての映像」の提起をもって締めくくられた。とりわけ創造的なサブ・カルチャー日常生活との交錯する自転車文化についての研究からは、大学と市自転車局との冊子づくりの協働、調査手法としての映像についておおいに議論が盛り上がった。翌日にはCCSに関するミーティングを行い、今後の展望にも大きな可能性を感じさせる成果がえられた。

■ 櫻田和也(都市研究プラザ特任講師)

From February 9th(Tue.) through the 11th(Thu.), an international seminar on “Cultural Cities: Creativity and Social Inclusion in Osaka and Copenhagen” was held at the University of Copenhagen. On the first day a study tour was held, learning from social inclusion and the practice of the arts, and on the following two days time was set aside for presentations and discussion on the topic of “Creativity and Social Inclusion.” On the final day we were able to discuss the prospects active participation in the journal CCS.